

# 会議の概要

## 平成28年度 第6回

### おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：平成28年11月25日（金）16:30～18:00

場 所：玉井小学校 多目的ルーム

進 行：玉井小学校教頭

1 開会のことば おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 伊藤和弥

2 教育長あいさつ 大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

(1) オープンスクールの後で学校運営協議会を開くという流れはできるだけ子どもたちの姿を見ていただくという目的で今年から取り入れた。

(2) 10月1日に実施した「おおたま・オータム・フェスタ」のアンケートの結果概要について、ご説明させていただく。

・質問内容は、

①今日の活動は楽しかったか、よかったと思うか。

②自分の学校や他の学校の友達、地域の方々とのかかわりについて有意義だったか。

③活動を通して、大玉村への理解や愛着が深まったと思うか。

というものであった。

・小中学生の回答では、そう思う、ややそう思うが90%程度を占めた。

・同様の質問でコミュニティ・スクールの委員からの回答では、そう思う、ややそう思うというご意見が100%であった。

(3) コミュニティ・スクール委員の皆様、また多くの地域の皆様のお力添えをいただき、大玉村が推進している「地域と共に歩む学校」「地域と共に歩む大玉の教育」という活動が評価され、このたび二つの賞をいただいたのでご報告する。

一つは地域・学校協働活動推進に係る文部科学大臣の表彰である。今回は放課後子ども教室が対象となった。

二つ目は福島県青少年育成県民会議からの表彰で、青少年育成市町村会議の部での受賞となった。この表彰に係る活動をしているのは教育委員会ではなく別の部署であるが、その内容がコミュニティ・スクール委員会を核として、村民を挙げて子どもたちの健全育成を推進しているというものである。皆様に御礼を申し上げるとともに、受賞を機にさらに皆様方にお力添えをいただき、地域と共に歩む学校づくり、学校を核とした地域づくりに取り組んでいきたいと思っている。

### 3 会長あいさつ

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長 境野健児

オープンスクールで授業を参観するのは、学校の持っている教育力や先生方の熱心さにふれるよい機会だと思う。6年生の算数の授業を見せていただいたが、子どもが先生の問いかけに向き合っている姿にエネルギーを感じた。子どもたちは授業でしっかり表現力を付けている。授業ではそういうことを大事にしているのだなというのが分かった。

(教育長退室)

### 4 委員自己紹介 (オープンスクールの感想を含めて)

### 5 協議

進行 玉井小学校教頭 近野典男

(1) 本日の協議内容説明 (玉井小学校教頭)

- ・幼稚園、小学校とも、今年度のテーマは「玉っ子 みんなでチャレンジ」としている。その中で一番力を入れていることは、子どもたちのために地域、保護者の皆様の参画を得て、学校にご来校いただき一緒に活動を進めていくということである。「学校、家庭、地域が一体となった教育」へ向けてということできざまな取り組みを行い、学校としてはかなりの成果が出ているという実感を持っている。しかし、このまま続けていった時に形だけ残ってマンネリ化しないように、今日は幼稚園・小学校からの事例紹介の後、来年度に向けての提言を頂きたいと思っている。
- ・ラウンドテーブルでは、文字通り机を囲んでいただいて、ざっくばらんに話し合っていたきたいと思う。その時間を30分取った。最後に各テーブルから報告をお願いしたい。

(2) 玉井幼稚園における保護者・地域の皆さんの参画を得た事例紹介 (玉井幼稚園副園長)

- ・幼稚園では「自ら考える子ども、心豊かな子ども、たくましい子ども」という教育目標のもと、子どもたちのよりよい成長のために日々保育に当たっている。その幼稚園経営ビジョンの中で目指す幼稚園の姿として、開かれた幼稚園をあげている。これは保護者の皆さんや地域の方々のご協力やご理解のもと一体となって取り組んでいくものである。そのために保護者による幼稚園行事へのお手伝いを年に数回お願いしている。
- ・保育自由参加は、保護者が子どもたちと一緒に園生活を経験し、普段の子どもたちの姿、幼稚園教育について理解を深めていただくことを目的としている。
- ・PTA主催のお泊り会については、PTA役員の方々を中心にして実行委員会を作り、子どもたちの自立心の育成、楽しい思い出づくりのために改善センターをお借りして実施していただいている。幼稚園とは違った環境の中、保護者から離れ、友達と一緒に過ごせた経験は子どもたちの成長につながっている。
- ・学校支援ボランティアの皆様には様々な活動のお手伝いをしていただいている。
- ・おおたま・オータム・フェスタについて。大山幼稚園や地域の方々と踊りやかぼちゃの絵付け、スポーツ遊びなどをして交流を深めた。地域の方々の協力ではスポーツ民踊会やずんね会の方々にご協力いただいて、子どもたちは楽しい時間を過ごすことができた。

・こうした行事を通して、保護者や地域の方々の幼稚園教育への理解が深まり、子どもたちも地域の方々と親しみをもって関わられるようになっていく。幼稚園としてはより安全な保育活動ができていく。

### (3) 玉井小学校における保護者・地域の皆さんの参画を得た事例紹介（玉井小学校校長）

・保護者の方や地域の方々が学校と同じように教育の当事者になって、同じ子どもを育んでいく同じ大人だという視点を持っていただければ、学校、家庭、地域が一体となった教育になっていくものと思いついてきた。

・玉井小の教育課題は、子どもたちの主体性を育成することである。そのために「玉っ子、みんなで、チャレンジ」を教育目標の重点に設定し、学校教育全体を通して子どもたちがチャレンジし、新しい世界を見ることができるよう工夫している。

・「玉っ子、みんなで、チャレンジ」をどうやって推進していくのか。子どもたちの教育は学校だけではできない。学校と保護者、地域の皆様が思いを共有することが大切である。そのために保護者には、実際に学校に来て教育を見てもらうだけではなく、参加してもらうことが大切である。考える。「参観」から「参加」へ。

・保護者や地域の皆様の「学習参加」の効果として、子どもたちは先生以外の大人に関わっていただき、教えてもらったり、ほめてもらったりすることで、学習意欲が高まる。教師にとっては一人では届かないところを保護者の皆様に見てもらえることができる。参加して下さった皆様からは、子どもたちの普段の学習の様子から、子どもたちがどこで気付いたり、つまづいたりするのか、先生はどう教えているのかなどよく分かるようになったという感想が寄せられた。

・玉井小では、これまでの学習参加をさらに進めていきたいと思っている。さらには地域の方々に来校していただくだけでなく、方向性を逆にして、子どもたちが地域に出て行って地域に貢献したり、地域の課題を解決したりする学習を進めていきたい。そのような活動を通して、子どもたちの主体性や自己有用感が高まっていくものと考えている。社会に見られる課題を考えていく学習、学校から地域、社会に向けて何か発信していくような学習が必要であると考えている。子どもでも社会に貢献できるようなことをやっていかなければならないと思っているので何かご意見、お知恵をいただければと思う。

### (4) ラウンドテーブル

～次年度の開かれた教育課程づくりへの提言

### (5) 各テーブルより報告

・算数の授業で保護者の丸付けボランティアに入っただき、大変効果的だったので、他の学年にも広げていきたい。

・ボランティアによって恩恵を受けている分、保護者としての役割を自覚し果たしてほしい。例えば、村内で行われる様々な教育的行事に参加するなど。参加したらスタンプを押すなどの工夫も必要だと思う。

・保護者のスマホ依存が高いので、ゲーム・スマホを禁止する日を作るなどして欲しい。

・学年によっては保護者のボランティアがまだ不足している学年もあるようだ。学校支援ボランティアに頼りすぎて、保護者が学校や地域に任せきりになっているのではないか。またスクールバスについても大玉村は行き届いているので、頼りきりになっているのではないか。

・保護者が学校に関心を持つような行事を考えていけばよいのではないか。

・自分の経験では、バレーボールやソフトボールでの交流といったPTA活動から、学校への理解にもつながっていたように感じている。今の保護者には、そういうつながりが少ないのではないか。

・学年が上がるにつれて保護者が学校に来る機会が減るので、保護者間の連携を強めるためにも保護者同士のつながりを深める行事があればいいのではないか。

・収穫体験の中で、その収穫した物がどこに売られていくかとか、どういうふうにつながっていくかなどについて学習するのも学習の連なりになるのではないか。

・直売所でどのような物が売られているかを調べて、大玉村でどういった物が作られているのかを学び、そういったことから地域とつながっていくことができるのではないか。

・講師の方をお呼びして、例えば里山体験といった、地域とつながることのできる体験等を多くしていけばいいのかなという話し合いになった。

・子どもたちが地域にいる時、声掛けするのも躊躇することがある。地域によっては見守りなどで親密な関係が築けているところもあるが、つながりをもっと深めていかなければならないと感じる。

・何よりも普段のあいさつをお互いに大事にすることで通じ合うのではないか。

・保護者のボランティア参加については、仕事の都合上参加できない保護者もいる。そこで、おじいちゃん、おばあちゃんの参加をもっと増やせばいいのではないか。

・祖父母と子どもたちとの関係も変わりつつあるので、祖父母が参加できる行事を増やしてお互いの交流を深めていく必要があるのではないか。そのためにも、学校教育だけでなく、社会教育等との広い連携も必要になるのではないか。

#### (6) 総括（コミュニティ・スクール委員会会長）

・学校側が声をあげるとたくさんの方が来てくれるという、大玉のいいところはそういうところにあると思う。学校を開くことによって親たちも学び、先生も授業に親たちが入ることにだんだん慣れてくる。先生自身が自分の教え方や親との関わり方を学んでいくことができる。学校を開くとは子どもや地域の人たちばかりでなく、先生方にとっても学びの場となるのではないか。これからの子どもに求められるのは、先生から教えられた知識を覚えてそれに正しく回答できるという力ではなく、判断力とか思考力であると思う。地域の力を子どもの学びにどのように結び付けていくか、その文化的土台が豊かにあり、そういうことができる地域が大玉であると思う。

#### (7) その他

・大玉村教育フォーラムについて確認をした。

・発表者について、参加したボランティアの方もよいが、講師として協力くださった方か

ら、外からの目線での話を聞きたいと思う。

・フリートークでのテーマについて、二つのことを話すというのは難しいと思う。話が盛り上がり過ぎてまとまらなくなる恐れがあるので、テーマ自体をうまく組み合わせて一つにしたほうが良いと思う。

## 6 閉会のことば おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 後藤みづほ

熱心な協議ご苦労様でした。大玉には土台があるではないかという励ましもいただき、勇気もらった。過干渉ではなく、気付いたところを補い合っていければいい土台が積み重なっていくと思う。



グループ協議のあと、各グループから出た意見を発表していただきました。